

【目次】

【三重県農業研究所成果情報集の創刊にあたって】	1
【イチオシ成果情報の紹介】	
①イチゴ新品種「かおりの」がデビューしました	2-3
②カラーチャート付き作業用手袋を使って収穫すれば果色の均一化につながります	4-5
③小麦の種子生産現場で発生している黒節病の対策技術を開発しました	6-7
④ミカンのマルチ栽培をサポートする「水分チェック・ボール」 ～ミカンの水分ストレス管理モデルを開発～	8-9
⑤家畜ふん堆肥の活用促進のためのWEB上で利用できる 「土壌診断・堆肥流通支援システム」	10-11
【新制度の紹介】	
「県の成果情報」と「研究所が紹介する研究成果」について	12
【植物工場実証事業の取り組みについて】	12

三重県農業研究所成果情報集の創刊にあたって

三重県農業研究所 所長 大泉 賢吾



三重県農業研究所では農業の研究開発を通じて、農業が魅力的な産業として発展できるような研究開発に取り組むとともに、研究所の知恵・強みを使って地域の問題を解決し地域社会に貢献することを目指しております。

とりわけ豊かで健全な食生活への期待が高まる中、研究開発を通じて魅力ある県産品が数多く開発されるなど農業の新しい価値が創出され、もうかる農業につながる取り組みの強化が農業研究所の重要な仕事になってきております。

県民の皆さんが農業研究所に期待していることに的確かつ迅速に応えることができているかを常に考えながら、県民の皆さんが、農業研究所の取り組みによって三重県がより良くなった、素晴らしい商品や価値が生まれたと実感していただくことが大きな目標であり、これに集中して仕事を行うことで成果を出すことが極めて重要だと考えております。

また、この期待に応えるためには、農業だけでなくあらゆる分野に意識を向けて他の知識や技術と連携・結合した成果を目指すことが求められており、とりわけマーケティングやビジネスの分野との連携によって地域社会に貢献する出口を見据えることが不可欠です。

農業研究所では、研究活動はプラス思考の連続から生まれるという考えを基本にし、「何が難しいか」を考えるのではなく、研究所の知恵や力を使えば、「まず何が非常にうまく出来るか、期待に応えられるかを考え行動する」、「多様な主体と連携して成果を上げる」という組織文化づくりに取り組んでおりますが、この一歩として成果情報集を創刊することとし、これを毎年継続する中で上記の目標に近づく改善と進歩につなげたいと考えております。

今後も、県民の皆様方や地域の期待に応えられるよう「技術と知識を創造し成果を次々と創出する農業研究所」を目指して努力してまいりますので、格別のご指導・ご支援をお願い申し上げます。